

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活して頂けるように」をモットーに、スタッフ全員で御一人お一人を支援するように心掛けています。日々のケアの中で一人ひとりに対して 問題・疑問が生じた場合などは スタッフ同士で話し合いを行い 解決策を見出しながらその人の生活が快適に過ごして頂けるよう取り組んでいます。季節の行事や 歌を歌ったり 散歩や外出などを行うことにより 日々の暮らしがマンネリ化にならないようにし 笑顔溢れる生活を送って頂けるようにしています。又、経営母体に有床診療所が併設されており 医療と連携することにより 健康で安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は地域の生活に根差した、有床クリニックである。そのクリニックを核とする医療法人の介護部門として、クリニックに隣接する地に、通所リハビリ・老健・ショートステイ・グループホーム(2施設)・シルバーホーム・デイサービス・ケアマネステーションを擁する複合介護施設である。地域の、クリニックに対する信頼も厚く、「ふなびきさんなら何とかしてくれる」との家族の声にも後押しされて、中央病院などとの連携も図られ、「様態が安定してきたから、またクリニックに戻りたい」と、クリニックに戻り、結局また『かがやき』に戻ってきた入居者も居る。ホームを選ぶ際にも「ふなびきさんとこのホームだから…」との安心感で選ぶ家族が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でその人らしく生活をして頂く」を理念に、日頃よりスタッフと話し合いを持ち日々のサポートへ活かしている	「笑顔でその人らしく生活して頂く」を理念として掲げ、「各個人の性格、生活習慣を踏まえ、自然体で笑顔があふれる生活がその実現化のイメージ」と管理者は語る。「図書館へ行きたい」と言う入居者の、笑顔実現のために、職員が図書館まで同行してサポートした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地元自治会、老人会に参加を呼び掛けている。地元自治会のウォーキングや幼稚園の餅つき見学など参加している。	散歩時には行き交う近所の人に挨拶したり、近所の小中学校の職業体験を受け入れたり、近所の幼稚園の餅つきに参加したりしている。自治会・老人会役員に運営推進会議メンバーを依頼しているが色よい返事はない。今年自治会主催のウォーキング大会には、入居者が一名参加した。母体法人も参加賞を提供した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日々の活動報告と共に 避難訓練の実施や推進会議の報告書を作成し欠席者には配布している。欠席される家族様からのご意見等について運営推進会議にて報告話し合いを行う場合もある。	市職員・入居者及び家族、職員をメンバーとし、隔月に年6回の開催が確認された。水曜の午後開催のため参加メンバーに限られ、日曜の開催も検討している。ネックとなる行政にも今後働きかけようとしている。自治会・老人会にも、メンバーを依頼しているが、曜日のためか色よい返事がもらえない。地域との連携を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所についての困難事例の相談や、運営推進会議以外でも情報提供をして頂いている。介護相談員も受け入れており、利用者の相談相手になっていただいている。	入居に関し、他市町村からの入居・身元引受人などでの困難事例で、行政と相談している。消防署には避難訓練でのAED使用、警察には防犯対策などで協力していただいている。市の介護相談員派遣を毎年受け入れたり、社会福祉協校連絡会に参画するなど行政との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期のミーティングの際に勉強会を開催し、事例の検討 禁止行為の認識 再確認をし理解に努めている。	訪問時玄関は解放していたが、各ユニットの入口は電子錠で、暗証番号で開錠するシステムとなっていた。定期のミーティングで、拘束の3要件など勉強はしている。	車いすで、予期せぬ動きや、急な立ち上がりがあり、固定している実例が報告された。またミトンの使用も報告された。各ユニットの開放も含め、今一度指定基準の理念に立ち返り、拘束排除の取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティングの勉強会や事業所開催の勉強会に参加し 知識 意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいないが、定期的に勉強会を開催し制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し、後日不安や疑問が生じた際には質問や問い合わせに随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に普段の様子を報告しながら 要望についても聞けるよう心がけている。問題や課題は毎朝の朝礼時や月1回のミーティングにて話し合い運営推進会議の出欠用紙に意見、要望を伺う用紙を配布している。	家族会はないが、毎月ホーム便りで、入居者のレク、外出等の生き生きとした様子が家族に報告されている。最近、家族から「他の病院を受診しているが、様態も落ち着いてきたので、母体のクリニックに転院してまたホームに戻りたい」と言う声に、応えて、帰ってきた人もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは、問題・事例発生時毎に報告し 月1回の法人全体の会議時に運営状況についての話し合いをしている。各スタッフには申し送りミーティング時に自由に意見を出せる機会を設け話し合っている。	何か問題があれば、申し送り・ミーティング時に職員の周知を集め、その都度解決している。勉強会では、忙殺されがちな日勤者と、入居者と落ち着いて向き合える夜勤者との介護手技の違い等に気づき、以後の手技統一、連絡徹底に役立った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業規則に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週2回～3回ホームを訪れ職場環境を把握職員に声掛けをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より 実践者研修や県主催の研修等外部の研修参加の案内 参加推進への働き掛けあり可能な限り参加させていただいている。 又、法人内の研修についても不定期だが実施されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設見学の受け入れや、営業活動の際の情報交換 相談を行い交流する機会を設けている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談時にアセスメントを行い 本人のニーズをサービスにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、契約時にアセスメントを行い家族のニーズをサービスにつなげている。本人面談後には家族から自宅での様子や今後についても話し気軽に相談できる関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何が必要なかの要望を情報収集しできる限りの対応をしている。必要に応じて他事業所(他施設 居宅 包括)に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事 配膳準備 掃除 洗濯干し)を職員と共に行っている。日常生活においては 先輩として利用者からいろいろな知識を得て日々の業務に生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や 面会時に話をする機会を持ち家族の思いを聞いたりホームからも相談を持ち掛けることを行いながら 共に支援できるような心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っていた場所、お店等できるだけ要望に沿えるような心がけている。	地域の入居者の馴染みの場所である桃太郎神社へ出かけたたり、喫茶店などへ出かけている。図書館へ行ったかった入居者には職員が同行した。訪問時には、入居者の友人が3名訪ねてきた場面に遭遇した。入居前からの折り紙・塗り絵・俳句などの趣味を楽しむ入居者も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者が得意としてきた事 活躍できる場所を職員で話し合い生かせるようにし 皆が生活を楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや電話連絡を通じ、家族との情報を共有している。退所された家族様との交流もあり近隣の要介護者の相談や施設見学の案内も行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。	「本人の想いや希望を自由に伝えられるようにコミュニケーションを多くもてる環境づくりをしている」と管理者は語る。その実例として、ソファで入居者の隣に座り、家のこと、お嫁さんのこと、行きたい場所などを聞き出している。実現可能なことは職員と協力して実行し、家族の協力が必要であれば、家族と連携して実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報から生活歴・好き嫌いを把握しその人に合った日常生活が送れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に1日の行動・言動・身体・精神状況を記録し、情報を共有している。必要に応じ申し送り、ミーティング等で話し合い 対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ、職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心がけている。本人の身体状況など記録に残し状態変化の際は その都度に計画変更をしている。	3か月、または6か月毎に見直ししている。ケアマネ出勤日に家族に来てもらい、要望を聴取して、プランに反映させている。最近骨折して入院した入居者は、車いす生活になってしまったが、時折立ち上がるので、そのためのプラン変更をした。カンファレンスは必要となれば随時開催し、プラン妥当性が吟味されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を記録し、行動 言動 健康状態 精神状態を記録し、申し送りやミーティングにて 個別カンファを行い情報共有し、介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や図書館への外出支援や家族の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも常に交流を持ち 他のニーズにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までは至っていない。ボランティアを受け入れ文化、趣味など楽しみが持てるような支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関からの往診や、24時間体制での医療支援を行っている。家族の希望での他科受診(歯科 眼科 など)の通院支援を行っている。	医療法人が母体であり、急変時等24時間対応で医療面での安心感がある。外部医療機関への受診については原則家族に対応をお願いしているが、受診に同行するなどの支援を行うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間の連絡体制を確保している。体調の変化等については随時報告し 対応についても相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同一敷地内での入院に関しては 常に情報を受け 対応を相談している。他病院の際は定期的に訪問し 病院担当者、家族との情報交換を行い 症状が安定した際は受け入れを早期に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に関しての随時報告を家族に行い医師の状態説明後や重度化した際 終末期までの状態について 本人・家族・スタッフと話し合いを行い支援の在り方の相談している。スタッフの不安はミーティングで話し合いを持っている。	医療・重度化に関する指針について入居時に確認し、また重度化した時などは利用者・家族等と相談し、医療機関、施設等の紹介を行っている。ホームでの看取りを希望される場合は受け入れる体制はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDの実践・救急対応の訓練を行っている。事故発生時・救急時の対応についても勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策に基づき、防災訓練を行い消火方法を学んでいる。ホームでの避難訓練も単独で行い、非常食についての確認も行っている。消防署の方の立ち合いにて訓練も行っている。	避難訓練を関連施設全体で年2回、それとは別にホームでも年2回実施している。運営推進会議の際に訓練を行い、地域の方に参加していただいたこともある。消防署職員も訓練に参加があり連携が確保できている。ホームで備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の行動についても把握し、トイレ誘導の際には さりげない声掛けを行い 居室への入室の際は 利用者 に許可を得て入室し、ノックをしての入室を心掛けている。	管理者としては、常日頃入居者と親しみを持って信頼関係をもって接しており、職員に対しても呼び名や目線など入居者に対する尊厳を大切にすることを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや、能力・状態に合わせられるような環境づくりをし 自己決定できるよう心掛けている。個々のできることを大切にし 生活に楽しみが持てるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって理美容院を利用している。季節に応じた衣類を着ていただき、衣類の衣替え時期には家族様への依頼もしている。化粧をされている方もいるため、見守りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝に当日のメニューの紹介、説明を行い食事に楽しみを持てるようにしている。おやつ作りも行い楽しんで頂いている。食事のセッティング手伝いも行っていたりしている。	法人内の厨房で栄養管理され調理された食事が提供されている。朝食はホームで調理、入居者にも配膳などできることを手伝ってもらっている。おやつ作りを楽しみの一つとしており、喫茶店風のレクレーションを行うなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、個々の個人記録に記載し 摂取が少ない方には法人内の管理栄養士や看護師に相談し改善できる取り組みもしている。食事の拒否があっても 時間を変更し召し上がっていただけるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔内の洗浄や歯磨きを行い、ご自身のできる事は見守りし、できないところだけ介助を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて声掛け・定期的なトイレ誘導をおこなっている。生活リズムに合わせ夜間ポータブルトイレの設置もしている。排泄チェック表も作成し本人の排泄パターンの把握に努めている。	それぞれの入居者の排泄パターンを把握、声かけしてできる限りお手洗いで排泄していただけるよう努めている。無理の無い範囲で紙パンツから布パンツへの変更などのケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を取り入れて運動する機会を作っている。食事や水分量も取りやすくなるようすに心掛けている。便秘時には医師より処方された薬を個々に合わせた使用量にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、水 日以外の午後と決まっているが利用者の希望に合わせる事もしている。入浴拒否の方には 職員の交代や後日への変更もやっている。	特殊シャワー浴設備もあり、車椅子の方でも暖かく入浴していただくことができる。入浴を拒否される入居者もいるが、上手に声かけして工夫して入っていただけるように努めている。菖蒲湯、柚子湯など季節の入浴の楽しみも実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を生かし、好きな時間に休んでいただいている。寝付けない方には、無理に寝かせず一緒にお茶を飲んで話を聞いたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフにて確認 把握できるようにしている。服薬後の状態については 看護師に報告している。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で 洗濯干しや食事の準備の手伝いなど 個々のできる事に合わせ毎日の習慣として職員と共に行っている。パズルや短歌 読書など本人が楽しめるような環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は、ホームの外周の散歩を行っている。花見 紅葉見学や、喫茶店への外出もやっている。	彼岸花や梅など、季節の草花を観るために自動車で出かける事もある。冬場を除き、喫茶店へ定期的に行くこともできている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金にて対応しているが、お金がないと不穩になる方もいるため持参している方には居室での紛失等ないように気を付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を使用して頂いたり相手方からの電話については本人に繋いでいただいている。手紙のやりとりはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロア窓から外を眺め その時々々の季節を感じていただける。居室がわからなくなる方には、目印になる花飾りなどを付け自身の居室だと安心して頂けるようにしている。	日差しがよく入る建物であり、とても明るく冬はあったかい。小学生の通学風景や稲刈りの様子などを窓から眺めることができる。 家族がボランティアで花壇の世話をしてくれており、季節の花を楽しむ事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでテレビを見ていただいたり、居室で読書や、折り紙など作成されたりしている。計算問題や塗り絵など自由にできるようにフロアに設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までに使い慣れた家具や、食器などを持参して頂き少しでも安心した生活環境で暮らして頂けるよう配慮している。居室内に家族写真や本人が好きなものを掲示・設置している。	家族の協力を得て、入居時になじみのものを持ってきてもらっている。お箸やお茶碗なども使い慣れたものをできるだけ持ち込んでもらっている。共用スペースで過ごしてもらう事が多く、居室にはテレビは設置しない方針である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下などには手すりを設置し、居室には名札や花などの飾りをつけてわかりやすくし、自由に居室への出入りができるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活して頂けるように」をモットーに、スタッフ全員で御一人お一人を支援するように心掛けています。日々のケアの中で一人ひとりに対して 問題・疑問が生じた場合などは スタッフ同士で話し合いを行い 解決策を見出しながらその人の生活が快適に過ごして頂けるよう取り組んでいます。季節の行事や 歌を歌ったり 散歩や外出などを行うことにより 日々の暮らしがマンネリ化にならないようにし 笑顔溢れる生活を送って頂けるようにしています。又、経営母体に有床診療所が併設されており 医療と連携することにより 健康で安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でその人らしく生活をして頂く」を理念に、日頃よりスタッフと話し合いを持ち日々のサポートへ活かしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地元自治会、老人会に参加を呼び掛けている。地元自治会のウォーキングや幼稚園の餅つき見学など参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日々の活動報告と共に 避難訓練の実施や推進会議の報告書を作成し欠席者には配布している。欠席される家族様からのご意見等について運営推進会議にて報告話し合いを行う場合もある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所についての困難事例の相談や、運営推進会議以外でも情報提供をして頂いている。介護相談員も受け入れており、利用者の相談相手になっていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期のミーティングの際に勉強会を開催し、事例の検討 禁止行為の認識 再確認をし理解に努めている。身体拘束の必要時はカンファにて再検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティングの勉強会や事業所開催の勉強会に参加し 知識 意識の向上に努めている。事業所内での勉強会の参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいないが、定期的に勉強会を開催し制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し、後日不安や疑問が生じた際には質問や問い合わせに随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に普段の様子を報告しながら 要望についても聞けるよう心がけている。問題や課題は毎朝の朝礼時や月1回のミーティングにて話し合い運営推進会議の出欠用紙に意見、要望を伺う用紙を配布している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは、問題・事例発生時毎に報告し 月1回の法人全体の会議時に運営状況についての話し合いをしている。各スタッフには申し送りミーティング時に自由に意見を出せる機会を設け話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業規則に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週2回～3回ホームを訪れ職場環境を把握職員に声掛けをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より 実践者研修や県主催の研修等外部の研修参加の案内 参加推進への働き掛けあり可能な限り参加させていただいている。 又、法人内の研修についても不定期だが実施されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設見学の受け入れや、営業活動の際の情報交換 相談を行い交流する機会を設けている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談時にアセスメントを行い 本人のニーズをサービスにつなげている。カンファなどで議題とし職員同士にて話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学时、契約時にアセスメントを行い家族のニーズをサービスにつなげている。本人面談後には家族から自宅での様子や今後についても話をし気軽に相談できる関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何が必要なかの要望を情報収集しできる限りの対応をしている。必要に応じて他事業所(他施設 居宅 包括)に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事 配膳準備 掃除 洗濯干し)を職員と共に行っている。日常生活においては 先輩として利用者からいろいろな知識を得て日々の業務に生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や 面会時に話をする機会を持ち家族の思いを聞いたりホームからも相談を持ち掛けることを行いながら 共に支援できるような心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っていた場所、お店等できるだけ要望に沿えるような心がけている。必要に応じて外出支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者が得意としてきた事 活躍できる場所を職員で話し合い生かせるようにし 皆が生活を楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや電話連絡を通じ、家族との情報を共有している。退所された家族様との交流もあり近隣の要介護者の相談や施設見学の案内も行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報から生活歴・好き嫌いを把握しその人に合った日常生活が送れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に1日の行動・言動・身体・精神状況を記録し、情報を共有している。必要に応じ申し送り、ミーティング等で話し合い 対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ、職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心がけている。本人の身体状況など記録に残し状態変化の際は その都度に計画変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を記録し、行動 言動 健康状態 精神状態を記録し、申し送りやミーティングにて 個別カンファを行い情報共有し、介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や図書館への外出支援や家族の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも常に交流を持ち 他のニーズにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までは至っていない。ボランティアを受け入れ文化、趣味など楽しみが持てるような支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関からの往診や、24時間体制での医療支援を行っている。家族の希望での他科受診(歯科 眼科 など)の通院支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間の連絡体制を確保している。体調の変化等については随時報告し 対応についても相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同一敷地内での入院に関しては 常に情報を受け 対応を相談している。他病院の際は定期的に訪問し 病院担当者、家族との情報交換を行い 症状が安定した際は受け入れを早期に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に関しての随時報告を家族に行い医師の状態説明後や重度化した際 終末期までの状態について 本人・家族・スタッフと話し合いを行い支援の在り方の相談している。スタッフの不安はミーティングで話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDの実践・救急対応の訓練を行っている。事故発生時・救急時の対応についても勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策に基づき、防災訓練を行い消火方法を学んでいる。ホームでの避難訓練も単独で行い、非常食についての確認も行っている。消防署の方の立ち合いにて訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の行動についても把握し、トイレ誘導の際には さりげない声掛けを行い 居室への入室の際は 利用者に許可を得て入室し、ノックをしての入室を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持てるような環境整備を行なっている。家族からも情報提供を受けながら対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや、能力・状態に合わせられるような環境づくりをし 自己決定できるよう心掛けている。個々のできることを大切に 生活に楽しみが持てるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって理美容院を利用している。季節に応じた衣類を着ていただき、衣類の衣替え時期には家族様への依頼もしている。化粧をされている方もいるため、見守りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝に当日のメニューの紹介、説明を行い食事に楽しみを持てるようにしている。おやつ作りも行い楽しんで頂いている。食事のセッティング手伝いも行っていたいしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、個々の個人記録に記載し 摂取が少ない方には法人内の管理栄養士や看護師に相談し改善できる取り組みもしている。食事の拒否があっても 時間を変更し召し上がっていただけるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔内の洗浄や歯磨きを行い、ご自身のできる事は見守りをし、できないところだけ介助を行うようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて声掛け・定期的なトイレ誘導をおこなっている。生活リズムに合わせ夜間ポータブルトイレの設置もしている。排泄チェック表も作成し本人の排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を取り入れて運動する機会を作っている。食事や水分量も取りやすくなるようすに心掛けている。便秘時には医師より処方された薬を個々に合わせた使用量にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、水 日以外の午後と決まっているが利用者の希望に合わせる事もしている。入浴拒否の方には 職員の交代や後日への変更もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を生かし、好きな時間に休んでいただいている。寝付けない方には、無理に寝かせず一緒にお茶を飲んで話を聞いたりして過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフにて確認 把握できるようにしている。服薬後の状態については 看護師に報告している。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で 洗濯干しや食事の準備の手伝いなど 個々のできる事に合わせ毎日の習慣として職員と共に行っている。パズルや短歌 読書など本人が楽しめるような環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は、ホームの外周の散歩を行っている。花見 紅葉見学や、喫茶店への外出も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金にて対応しているが、お金がないと不穩になる方もいるため持参している方には 居室での紛失等ないように気を付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を使用して頂いたり相手方からの電話については本人に繋いでいただいている。手紙のやりとりはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアー窓から外を眺め その時々々の季節を感じていただける。居室がわからなくなる方には、目印になる花飾りなどを付け自身の居室だと安心して頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのソファでテレビを見ていただいたり、居室で読書や、折り紙など作成されたりしている。計算問題や塗り絵など自由にできるようにフロアーに設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までに使い慣れた家具や、食器などを持参して頂き少しでも安心した生活環境で暮らして頂けるよう配慮している。居室内に家族写真や本人が好きなものを掲示・設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下などには手すりを設置し、居室には名札や花などの飾りをつけてわかりやすくし、自由に居室への出入りができるようにしている。		